



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

「風船爆弾」の放球基地 を貴重な平和の史跡に

第3回定例 9月議会 鈴木やす子議員の一般質問から



9月9日、市議会で一般質問がおこなわれました。今号では鈴木やす子市議の質問の質問の概要を報告します。

史料の収集・整備を

「鈴木やす子議員」8月15日におこなわれた市の戦没者追悼式で、市長は、本市の核兵器絶滅平和都市宣言にふれ、その理念を市民と共有し、平和を願う北茨城市として発展させていきたいと述べられた。私は、具体的な取り組みとして、風船爆弾の放球基地周辺の整備などを提案したい。

「市長」放球基地跡地周辺については民地ということもあり、行政が関わるのはむずかしい。長浜海岸にある「忘れじの碑」周辺について整備を検討する。
「教育次長」雨情記念館を中心に資料収集に努める。
「鈴木議員」「負の遺産」であろうとも歴史は事実をもって次世代に伝えるべき。

系統的に掘り起こし、収集と整備を求めたい。

インターネットの活用

「鈴木議員」速報性や双方向性がホームページの利便性だと考える。現状では更新が遅く情報提供も不十分だ。

「市民福祉部長」9月からシステムを変更し、庁舎内で各課ごとに更新できるようにした。必要な情報を迅速に更新していくよう、努める。

「鈴木議員」市民や観光客からの情報提供や、意見徴収のツールとして積極的に利用を考へるべき。
「市民福祉部長」信ぴょう性の確認など課題を整理し、検討していく。

「鈴木議員」情報の公平化のため、市内のブロードバンド(高速回線)化はすすんでいるか。

「市長公室長」市内80%を網羅している。山間部など



市役所ロビーのモニター画面から

が残っているが、業者にもアピールし、拡大の方向に努力する。

介護予防の取り組み

「鈴木議員」「健康生き生き体操教室」および「シルバリーハビリ体操」は、それぞれどういう取り組みか。

「教育次長」「健康生き生き体操教室」は全世代対象であり、生涯学習で公民館などで講習をしていく。

「市民福祉部長」「シルバリーハビリ体操」は、おおむね60歳以上が対象。ボランティアを中心に、高齢者サロン、くるみの会などで取り組んでいる。

「鈴木議員」住民の選択肢としても行政の支援は必要。ボランティアの自発性を損なうことなく、系統的な啓蒙など環境整備のために力をつくしてほしい。

議会の本会議で、生まれてきた赤ちゃんに絵本を配るブックスタートの事業を提案しました。私自身の体験ですが、出産祝いに友人が絵本をプレゼントしてくれました。首が据わってきたころ、ひざの上に抱いて絵本を広げると、赤ん坊はじっと本の絵を見つめ、私の声を聞いています。表情をほころばせながら、時には喃語も発します。初めての子育てで四苦八苦していたとき、いま、少子化がすすみ、若いお母さんたちは、赤ちゃんと身近にふれる経験もなймаまで親になります。赤ん坊を抱っこするのは、わが子が初めてであったり、小さい子を相手にどう言葉かけをしたらいいのかすら分からない状態だったりするのです。

「ブックスタート」

北茨城市議会議員 鈴木やす子

です。赤ちゃんは言葉の響きも楽しんでいきます。同じことはを繰り返して聞くことで、ことばの発達が促されるとともにお母さんとのふれあいが深まります。書いてあるとおりだと思いません。そういう絵本との出会いの機会を、すべての赤ちゃんに親にぜひ与えていただきたいと考えます。

そして、たんに絵本を配るだけでなく、親も一緒に絵本を開く時間の楽しさを体験してもらうことが大切です。家庭でもそうした時間をもち一番のきっかけになるからです。

赤ちゃんを真ん中にして地域の人の交流も広げ、「地域みんなで子育てを応援していますよ」という、あたたかいメッセージを若い親たちに伝えたいと思います。孤立しがちな親子に、社会との窓口を開くことにもつながります。

予算的には本代だけですが、地域コミュニティの形成にも役割を果たせるはずです。ぜひとも、関係する各課での横断的な取り組みによって実現されることを求めます。

赤ちゃんに絵本を

「鈴木議員」新生児期に絵本のプレゼントをすることで親子でふれあう時間、空間を共有し、また読書の世

界に誘う一助にも位置づけられるのがブックスタートの事業である。本市でも取り組んでほしい。
「教育次長」今後、実施に向けて検討していきたい。